



金曾木だより

台東区根岸4-16-22 TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507
<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218>

令和5年度 5月号
台東区立金曾木小学校
校長 細田 儀広
令和5年 4月28日

「自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 自分の良さを伸ばす子」

解放感と達成感

校長 細田 儀広

日本がWBC(ワールドベースボールカップ)で優勝して以来、野球に関するニュースを目にする機会が増えたような気がします。少し前のことですが、元プロ野球選手が第二の人生で活躍をしている話をネットニュースで読みました。元広島東洋カープの選手だった正田耕三さんは、現役当時、2度の首位打者に輝き、89年に盗塁王、2塁手でベストナインに2回選ばれ、ゴールデングラブ賞を5回も受賞しました。現在は、野球とは別の仕事をする傍ら、子どもたちに野球を教える活動を行っているそうです。

その正田さんが、子どもに野球を指導する側になって感じることは「今の野球の指導者は、勝つことを意識し過ぎる傾向にある。小・中学生の頃は野球って楽しいということを教えないと。大切なのは高校に行って野球を続ける子をいかに増やすか。」という内容でした。私は、この記事を読んで、小・中学校の勉強にも通じる部分があるな、と感じました。

学校は学ぶ場、それは当然のことですが、学ぶと同時に考えないといけないのが学力です。学力は点数や偏差値といった目に見える形で示されます。私たち教員も学力を付けることは常に意識していますが、学び手である子どもたちが、どれくらい学力に意識が向いているかは疑問です。子どもたちにとっては、一時間一時間の学習内容が「分かる」こと、「学ぶことが楽しい」ことが大切な気がします。学力(数値)を過剰に意識し過ぎて、子どもたちの思いが置きざりにされていないか改めて考えました。

昨年度、PTA 家庭教育学級の際、小金井市教育委員会教育長の大熊雅士先生が講演の中で、ご自身が教員の時代に、やっと鉄棒の逆上がりができた子が発した「もうこれで逆上がりをしないでいいんですよね先生」という言葉を聞いて、子どもの想いは教師が思っていたものと違っていたという経験を話されました。子どもはできたことの達成感よりも鉄棒からの解放感を感じていたというのです。このことを普段の学習に置き換えてみるとどうでしょう。子どもたちのモチベーションより大人の想いを優先して、無理な課題を強いていないだろうか、日本の学生は受験の時は勉強をするが、入学すると勉強をしなくなるという話は、私が学生時代からよく聞きます。義務教育の終了後も生涯にわたって学び続ける人の育成を国は目指しています。そのためには、学ぶ側が学ぶことを好きになる必要があります。

無責任に、勉強はやりたいときにやればよいとは言えませんが、指導方法を工夫したり、教材を研究したりして、学ぶことが好きな子どもを育てることが、教師の役割だと考えます。金曾木小学校では、授業を通して子どもたちの達成感や満足感を大切にしたいです。近年、習い事や学習塾へ通っている子も多いと聞きます。ご家庭でも、子どもたちの学びに向かう姿勢を意識してみてはいかがでしょうか。

120周年イベント 5月12日(金)

5月18日(木)は金曾木小学校の創立記念日です。創立120周年を記念して、5月12日(金)の午前中に全児童で作る校章の航空写真と集合写真の撮影、午後には金曾木小の紹介を書いた風船を飛ばします。当日、全児童が参加できるようにご協力をお願いします。※雨天による延期の日程は、別途お知らせします。